

**【総評】**

数年におよぶコロナ禍で日常生活に様々な制限を受けるなか、受験生の皆さんは、緊張や不安を感じながらもこれまでの学習の成果を発揮しようと全力で入試にのぞまれたことと思います。本当にお疲れ様でした。高校入試は、中学生の皆さんにとって人生の節目であることに間違いありませんが、最も重要なのは、この経験を今後の長い人生の中でどのように活かしていくかということです。今回の経験が皆さんを強くし、今後の人生の糧となることを祈っています。また、保護者の方々も、受験したお子さん同様に（もしくはそれ以上に）不安を抱きながら過ごされていたことと思います。本当にお疲れ様でした。

以下、今年の入試について簡単にコメントいたします。

**【難易度】**

5教科の合計としては、昨年よりやや易い水準と考えられます。教科別に見ると、数学を中心に平均点が上昇するものと思われませんが、上昇の幅は学力層によって開きがありそうです。

**【出題形式・内容】**

昨年末に、表紙のページにも問題文が印刷されることが発表されました。これにともない、社会の大問数が1題増え、第一問として分野横断的な小問集合が出題されました。社会は複数の資料を読み取るなど大規模な大問が多いため、第一問の追加は受験生にとって取り組み易くなる方向での変化と思います。それ以外の教科は、全体的な構成に大きな変更はなく例年通りの出題で、比較的落ちついて対応できたことと思います。ページ数が増えたこともあり、全体に問題文の分量は増加しており、読解力重視の傾向がみられます。

**【国語】**

- 難易度…第三問と第五問はやや難しかったものの、大半が平易な問題でした。平均点は、昨年同様60点台だと予想されます。(昨年は61.2点)
- 構成…昨年の形式を踏襲した出題となりました。
- 第一問(漢字・熟語・実用的文章)…実用的文章は、「書くこと」の単元に加え、問四(三)と(五)に「話すこと」、「聞くこと」の単元を意識した出題が見られました。実用文を読み取ったことをふまえて記述する問題しか取り組んでこなかった人には難しい問題だったかもしれません。
- 第二問(文学的文章)…読みやすい文章で、比較的平易な問題が多く出題されました。主題となる記述問題(問四)も例年に比べ、書きやすかったと思われます。
- 第三問(説明的文章)…問四、問五がやや難しかったと思われます。
- 第四問(漢文)…書き下し文に注釈が多く付いているため、内容は読み取りやすかったと思います。出題は、返り点を付ける問題と内容に関する問題という基本的なものでした。
- 第五問(作文)…昨年と比べて難化しました。初めて出題されるパターン作文であるため、戸惑った人も多いのではないのでしょうか。ア～ウそれぞれをあてはめたときのニュアンスのちがいに気づけたかどうかのポイントになると思います。

## 【数学】

- 難易度…オーソドックスな問題が中心で、例年に比べて易しめの出題でした。時間配分の上でも無理なく解答できたのではないかと思います。平均点は50～55点程度と予想します。
- 構成・形式…構成としてはほぼ例年通り。第三問は、内容上確率と1次関数との2題に分かれており、関数は身近な素材からの出題となっており、一昨年の傾向を踏襲する形となりました。難問は少ないですが、解法の自由度の高い問題が多く、知識を活用する力を重視した出題になっていると思います。
- 第一問…例年通り、基礎・基本を重視した出題でした。
- 第二問…例年に比べて難問も少なく取り組み易かったと思います。2の(2)は相似比と体積比を利用する問題ですが、実際に体積を計算して時間を取られた人もいるかもしれません。3の(2)は、方程式の解を利用して答えを求めなければならないという点で、力を必要とする問いだったといえます。4の(2)、移行措置から累積相対度数が出題されました。前回の指導要領改訂では移行措置内容はほとんど出題がなかったと記憶しています。
- 第三問…1の確率は、無理なく数え上げられる範囲からの出題で取り組み易かったと思います。2は1次関数。(2)のイは、正しくグラフをかくことができれば、計算せずに交点を読み取ることで正答を導くこともできます。例年と比べて易しい出題でしたが、式を作って解決する場合「1時間あたりの電力量」をそのまま利用するのか、「1分間あたり」に直すのかなど判断に迷う要素もあり、解き慣れていない人にとってはやはり難しかったと思います。
- 第四問…最終問をのぞき、例年とくらべてもごく易しく、素直な問いでした。

## 【社会】

- 難易度…昨年と同程度と思われる。そのため、平均点も昨年(63.1点)と同程度と予想されますが、語句問題や記述問題の無答率によって5点ほど下がる可能性も考えられます。正答率が高いと予想される語句問題や比較的答えやすい記述問題などで、得点を積み上げられたかどうか大きなポイントとなりそうです。
- 構成・形式…大問数が5題から6題に変更されましたが、全体の小問数は例年通り30問となりました。配点は小問1のみ15点で、ほかの大問はすべて17点でした。また、小問1は、記号選択問題のみの地理・歴史・公民分野の融合問題となりました。そのほかの大問の出題形式は例年同様で、資料の読み取りや活用を意識した問題が今年も多くみられました。
- 第一問(地理・歴史・公民)…民主政治の成り立ちに関する出題でした。それぞれの問題の選択肢を丁寧に判別し、確実に得点できたかどうかポイントとなったと思います。
- 第二問(地理)…九州地方の農業に関する出題でした。2(2)の記述問題では、資料Dや資料Eの内容は比較的わかりやすかったと思いますが、資料Fから「外国産農産物に対抗するための競争力」について読み取り、表現することは難しかったのではないかと思います。
- 第三問(歴史)…みそとしょうゆの歴史に関する出題でした。5の記述問題では、資料Cと資料D(地図)を関連づけて表現する力が求められました。
- 第四問(公民)…科学技術の発展と進歩に関する出題でした。3の記述問題は、「オンライン診療」という時事的な内容に関する出題となりました。設問文をしっかりと読み、3つの資料から利点と課題について解答できたかどうかで得点に差がついたのではないかと思います。
- 第五問(地理・歴史)…南アメリカ州の人々の生活と文化に関する出題でした。2(2)の記述問題では、資料Dと資料Eから「ブラジルの歴史的背景」について読み取り、説明する力が求められました。
- 第六問(歴史・公民)…国際問題と日本の国際貢献に関する出題でした。4(2)の記述問題は、「市民参加協力事業」という言葉の意味を知らなくても、資料Cと資料Dを読むことで答えられます。一見すると難しい問題に見えますが、落ち着いて答えられたかどうかポイントとなりました。

## 【理科】

- 難易度…全体を通してとりかかりやすい問題が多く出題されており、また記述問題の量も減り、記述量も少なくなったことから、平均点は昨年より上がり、55点前後になると思われます。
- 構成…第一問の形式が変化しました。全体の小問数は32問で、配点は第一問が36点、第二問から第五問は各16点でした。完全解答は4問、記述は3問、作図は2問でした。
- 第一問（小問集合）…血液循環（生物）、火山・火成岩（地学）、ダニエル電池と電圧・電流（化学・物理）からの出題でした。素材に会話文が使われ、分野融合問題が出題されるなど、昨年までの形式から大きな変化が見られました。ただし、内容自体は基本的なものばかりでしたので、形式の変化に惑わされずに取りこぼすことなく確実に得点したいところです。
- 第二問（生物・光合成）…オオカナダモの光合成に関する問題でした。3の仮説が正しいとした場合の結果の予想、5の対照実験の内容・結果といった新傾向の出題が見られましたが、複雑な設定などはなくスムーズに解答できたと思われます。
- 第三問（地学・太陽の動きの観察）…太陽の日周運動に関する出題でした。3は計算問題でしたが、よく見られる内容でしたので、十分に対策ができていれば得点できたのではないのでしょうか。4(2)は見慣れないもので、思考力が問われました。
- 第四問（物理・フックの法則、力のはたらき方）…ばねとフックの法則、斜面上の物体に加わる力に関する出題でした。1～4はオーソドックスな問いでしたが、5は設定の理解や計算に時間がかかり、正解できなかった人も多かったと思われます。
- 第五問（化学・中和）…塩化バリウム水溶液と硫酸の中和に関する問題でした。塩化バリウムを使うため、2の化学式が水ではなく塩酸となることに注意が必要でしたが、その他の問題はしっかりと得点を重ねられた人も多かったと思います。

## 【英語】

- 難易度…全体として、内容を把握しやすくストレートな出題で、解答に悩むような問いはなかったように思います。やや易しめの出題だったと思われます。
- 構成…出題形式・配点とも、大きな変更点はなく、昨年同様の出題となりました。
- 第一問（リスニング）…出題形式・配点は昨年同様でした。選択問題はまぎらわしい選択肢がなく、全体に易しい出題だったのではないのでしょうか。
- 第二問（小問集合）…昨年の出題形式・配点を踏襲していましたが、文法問題でよく見られるオーソドックスな出題で、例年よりも易しく感じた人も多かったかと思います。
- 第三問（長文読解）…例年通りの出題形式で、難問はなく、落ち着いて解答できたかと思います。英文は比較的読み取りやすい文構造のものが多く、「気持ちを書き出して整理する」というテーマが読み取れば、理解に苦しむことはなかったかと思います。
- 第四問（長文読解）…昨年同様の出題形式でした。第三問と比べて文構造が複雑な英文が多く、読みごたえはあったかと思いますが、題材としてはイメージしやすく取り組みやすかったのではないのでしょうか。概要をきちんと把握しているかが問われる出題が多めで、解きづらく感じることもあったかもしれません。
- 第五問（英作文）…昨年と同様に、1文・3文以上で表す英作文2題の出題で、配点にも変更はありませんでした。イラストや資料は用いられず、会話文のみの出題となりました。書くべき内容はイメージしやすかったかと思います。